

河川事業の再評価項目調書

事業名（箇所名）	江の川 総合水系環境整備事業		
実施箇所	江の川直轄管理区間内		
当該基準	社会情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業（水辺整備 1 箇所の追加、事業期間の延伸）		
事業諸元	【水辺整備】 ・ 巴峡三次かわまちづくり （国）親水護岸、管理用通路、階段、河道整正 （市）出店ブース、広場、遊具、駐車場、キャンプ等サイト		
事業期間	平成 9 年度（1997 年度）～令和 16 年度（2034 年度）		
総事業費（億円）	11.9 億円 （内、国整備分 9.9 億円、市整備分 2.0 億円）	残事業費（億円）	11.9 億円 （内、国整備分 9.9 億円、市整備分 2.0 億円）
目的・必要性	江の川は、広島県山県郡北広島町阿佐山（標高 1,218m）に水源を発生し、小支川を合わせながら北東に流れ、途中三次市において馬洗川、西城川、神野瀬川を三方より合流し、流路を西に転じて先行性の溪谷をつくって流れ、島根県的美郷町において大きく屈曲して西南に向かい、河口に近づくにしたがって徐々に流れを北に向け、江津市において日本海に注ぐ、幹川流路延長 194km、流域面積 3,900km² の一級河川である。 【水辺整備】 《巴峡三次かわまちづくり》 ・ 三次市は、質を重視した付加価値の高い観光の実現に関する計画（みよし未来共創ビジョン（第 3 次三次市総合計画））や、観光消費額の増大に向けた計画（地域まちづくりビジョン）に加え、川並を活かしたまちづくりに関する計画（三次市観光戦略）を策定しており、「三川合流部付近の河川空間を活かした観光振興」を目指している。 ・ 三次市では、まちの魅力向上を目指し、三次の特徴である河川環境や交通の結節点を活用したまちなかのにぎわいづくりを進めており、令和 4 年度には「三川合流部かわまちづくりワーキング」を設置し、「巴峡三次かわまちづくり計画」を作成し、令和 6 年 8 月に登録された。 ・ しかし、一方で、観光消費額が広島県平均に比べて低く、河川の資源・魅力の活用が不足しており、「観る」観光資源は多くあるが、「体験する」観光コンテンツの開発が進んでいない。 ・ そのため、鵜飼を目玉とした外部からの誘客強化を目的に、観光遊覧船を運航できるよう、親水護岸や階段、管理用通路の整備を行い、河川の景観を活用した魅力的なにぎわい拠点の創出を目的に、屋台・キッチンカーやイベント等を提供・開催できるよう、出店ブース及び広場、駐車場を整備する。加えて、滞在時間の延伸を目的に、オートキャンプやデイキャンプ、BBQ 等を提供できるよう、キャンプ等サイトの整備及び河道整正を行う。		
便益の主な根拠	【水辺整備】 巴峡三次かわまちづくり CVM 全体事業：住民支払意思額＝414 円/世帯/月、受益世帯数＝15,211 世帯。 観光客支払意思額＝475 円/人・日、 観光客数（補正後）＝357,581 人/年。		

事業全体の投資効率性	基準年度	令和6年度				
		B:総便益 (億円)	C:総費用 (億円)	B/C	B-C (億円)	EIRR (%)
	全体事業	35.7	9.6	3.7 (社会的割引率 2% : 6.1) (社会的割引率 1% : 8.1)	26.0	11.1%
	残事業	35.7	9.6	3.7	26.0	11.1%
感度分析				残事業(B/C)	全体事業(B/C)	
	残事業費(+10%~-10%)			3.4~4.1	3.4~4.1	
	残工期(+10%~-10%)			3.6~3.8	3.6~3.8	
	便益(+10%~-10%)			4.1~3.3	4.1~3.3	
	当面の段階的な整備　—					
事業の効果等	【水辺整備】 《巴峡三次かわまちづくり》 ・三川合流部周辺を、本市における「観光おもてなし拠点」と位置づけ、三つの川が合流する河川景観・自然を活かした、キッチンカーやカフェなどの出店、キャンプ・BBQ 等のアウトドア体験、「三次の鶴飼」で使用する遊覧船の活用や鶴鮎の販売、十日市親水公園や尾関山周辺等における水上アクティビティ体験により、来訪者の滞在時間の延伸を図り三川合流部周辺のにぎわいを創出する。					
社会情勢等の変化	[地域開発の状況] ・三次市は中国地方の中心に位置し、古くから交通の要衝となっており、平成26 年度には広島県尾道市と島根県松江市を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線が全線開通し、令和 7 年度には一般国道 375 号引宇根工区の改良事業が完了予定であるなど、交通網の強化が進められている。 ・三次町地区では、平成 29 年度より「三次まるごと博物館事業」として、三次地区の歴史・文化・芸術を活かした文化・観光まちづくりの「三次地区拠点整備事業」、「三次地区誘客促進事業」、歴史的街なみを修景する「三次町歴史的地区環境整備事業」等を実施してきた。 ・平成 31 年 4 月には、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）を開館した。 [地域の協力体制] ・令和 4 年度に、地域の事業者、三次観光推進機構、三次市、中国地方整備局三次河川国道事務所等が参加する「三川合流部かわまちづくりワーキング」を設立し、三川合流部の河川空間を活かした観光振興に向け、取組の方針・将来像や具体の施策について意見交換を行った。 ・現在、三次地区では、地元市民も参画し、草刈作業が継続的に実施されており、十日市親水公園では、17 団体が実行委員会を組織し、役割分担の下でラブリバー環境美化活動が行われている。 [関連事業との整合等] ・「街なみ環境整備事業」（H16～R6）では、街路整備とあわせ電線類の地中					

	化等を行うことにより、歴史的環境保全や資源の活用を通して、居住環境の向上と活性化を図る。 ・「三次まるごと博物館事業」（H29～R1）では、三次市の観光・交流人口の拡大、観光消費額の増加や、郷土への誇りの醸成と交流による創造的な活動の活性化を図る。 [河川環境等を取りまく状況] ・上流部では、山間部でコナラやミズナラなどの広葉樹林が溪畔林を形成し、平野部で河原にツルヨシやイヌハギ等が生育している。鳥類ではヤマセミ、イカルチドリが、魚類では、アカザ、アユ、オイカワ、ドジョウ、オヤニラミ等が生息している。 ・中流部では、崖地や岩場にはツメレンゲやキシツツジが、砂レキが広がる河原にカワラハハコが生育している。動物相を見ると、オシドリ、イカルチドリ、イシドジョウ、カジカガエル、オオサンショウウオ等が生息している。 ・下流部では、崖地や岩場にはツメレンゲやキシツツジが、河原にはエノキ、タチヤナギが生育しているとともに、ヨシ群落も確認されている。回遊魚のアユカケ（カマキリ）やニホンウナギ等が生息しており、本川の小砂利、レキからなる瀬ではアユが産卵、支川の濁川ではサケの産卵が確認されている。 [河川の利用状況等] ・江の川、馬洗川及び西城川が合流する三川合流部付近は、散策、水遊び、レクリエーション等の市民の憩いの場として親しまれるとともに、身近な自然環境体感スペースとなっている。 ・特に、「散策等」や「スポーツ」の利用者数が多く、十日市親水公園に利用者数が多く見られる。 ・令和元年度の年間空間利用者数総数（推計）は、約 38.0 万人であった。
事業の進捗状況	・事業の進捗率は 0%（事業費ベース）である。（総事業費 11.9 億円）
事業の進捗の見込み	・巴峽三次かわまちづくりは「かわまちづくり」支援制度を活用し、三次市と連携して地元や関係機関の意見を取り入れながら事業を進めており、今後事業進捗する上で支障はない。
コスト縮減や代替案立案の可能性	・整備にあたっては、技術開発の進展に伴う新工法の採用等の可能性を検討する等によりコスト縮減を図る。 ・登録されたかわまちづくり計画に基づき実施するものであり、代替案立案の必要はない。
対応方針（案）	継続
対応方針理由	・事業の必要性、費用対効果、地元の協力体制等の観点から、事業継続が妥当である。 ・今後の事業実施にあたっては、地域との協力体制を確立した事業効果の検証など、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。
その他	—